2016年度　東京工業大学
文系エッセンス　第7回

2016年7月27日（水）

担当者：西田亮介
リベラルアーツ研究教育院准教授
ryosukenishida@gmail.com

東京都知事選挙と東京都について

- 人口･･･
- 歴史･･･
- 予算･･･
- 職員数･･･

日本政治とメディア戦略の変容

時期	慣れ親しみの時代 （2000年代以前）	移行と試行錯誤の時代 （2000年代）	対立・コントロール期 （2012年、第2次安倍内閣以後）
メディアとの関係性	「慣れ親しみの関係」 ・　長期的で、安定的な信頼関係の構築 ・　政治とメディアの人材交流	「関係性の再構築」 ・ 連続する短命政権と、不安定な民意。 ・ 長期の信頼関係構築のいっそうの困難	「対立・コントロール関係」 ・　短期的な利害関係 ・　相互に直接的な影響力の行使を追求。 ・　変化に敏感な政治優位
有権者との関係性	間接的（マスメディアを除く広報手段の限定）	ネットの普及、メディアの力学の変化のなかで、政治と有権者の直接対峙が可能に	戦略的意図をもってデザインされた直接、間接の関係性構築の追求
戦略の起点	属人的	個人と組織の併存	組織化と体系化 （未完成）

「政治イメージ」と「イメージ政治」

- 政治と「政治」
  - 我々が普段目にしているのは、「政治」であって、政治そのものではない？
  - 「擬似環境」 ウォルター・リップマン（政治評論家。「Cold War」概念を提唱した人物としても知られる）
  - メディアと政治の「政治」をめぐる緊張関係

- メディアと政治の「慣れ親しみの関係」
- 政治部、記者クラブ、番記者制
  - メリット:

    情報発信がマスメディアしかなかった時代には、メディアが一枚岩になることで、政治に対する監視機能を果たす場合もあった。
    政治もときとして、メディアに譲歩するほかなかった
    人材育成とインサイダー情報への浸透

  - デメリット:

    メディアと政治の独立
    一度、機能不全を起こしたときに、再生手段の不在。

「対立・コントロール関係」

- 小選挙区制の導入
  - プレイヤー（政治家）の入れ替わり頻度向上
  - 政治が中長期の展望を持ちにくくなった。
  - メディアと政治の「慣れ親しみ関係」形成が困難に

- インターネット・メディアの台頭
  - 95年：日本のインターネット元年
  - マスメディアの信頼性低下
  - メディアの力学の変化
  - 政治から見た時の、情報発信オプションの増加

- 政治の環境適応
  - 政治の方が、メディア環境変化への適応へのモチベーションが高い
  - ハワード・ディーン、ブッシュ、アル・ゴア、オバマなどロールモデルの増加
  - マスメディアに「隷従」するインセンティブ低下

自民党的アプローチの概要

- 2000年代: 政治マーケティングの高度化（雑誌等への広告出稿等の分析）、2004年頃からの党改革検証・推進委員会を通じた手法の高度化と埼玉8区補選での勝利。

- 2005年: 郵政選挙、小泉内閣における「原点」。タウンミーティングやらせ問題等の反省。

- 2010年: 自民党ネットサポーターズクラブ（J-NSC）

- 2013年:

トゥルースチーム、研修等を通じた「情報収集→分析→フィードバック→発信」のサイクル。

- 2015年: 自民党のオープン化戦略: オープン化（アクセスポイントの公開）、標準化（選挙プラットフォームとしての政党）
  - Ex.） NewsPicksでの小林文明議員と西田の対談参照のこと。

自民党のメディア戦略を際立たせた環境条件

- 野党の絶対的劣勢。
  - 支持率低下、政策の不透明さ、信頼性低下

- 民主党の広報戦略革新の失敗
  - 組織能力向上の失敗
    - 2000年代前半は与野党競合
    - 内製化と組織能力蓄積の失敗
    - 2005年での外資系PR企業との契約解消
    - 政党シンクタンク「プラトン」の解散（ただし、自民党も党内シンクタンクは解散）。
    - 若年世代の支持低迷。
      - 民主党への世論の期待が2000年代中盤以後だとして、2009年政権交代をピークと捉えると、現在の18歳は13、4歳、22歳（大学4年生）で、15、6歳。この世代にとっては、民主党への期待と活躍は、経験的な記憶となっていない可能性が高い。

Quiz

- 東京都知事選に関連する報道で印象に残っているものを具体的に挙げ、理由とともに500字程度で論じよ。